

せたがやの文化財

編集 世田谷区教育委員会事務局
発行 生涯学習・地域学校連携課文化財係

〒154-8504 世田谷区世田谷4-21-27
Tel 03-5432-2726 Fax 03-5432-3039
<http://www.city.setagaya.lg.jp>

発行日 令和2年3月31日

再生紙を使用しています

No.032



次大夫堀公園民家園再整備基本構想を 策定しました

世田谷区喜多見5丁目にある次大夫堀公園民家園では、古民家の囲炉裏で火を焚き、建物に触れることで、昔の世田谷の農村の暮らしを体感することができる事業を行っています。

開園から30年あまりが経過し、区を取り巻く社会状況は大きく変化し、民家園周辺での宅地化が一層

進みました。この間にも様々な取り組みを行ってきましたが、新たな課題も出てきました。本基本構想では様々な課題を整理し、世田谷におけるかつての農村の暮らしや文化を伝えるための取り組みを、総合的かつ計画的に推進するための指針として策定しました。

※次頁に続きます。

基本理念 「守り、育み、活かす 民家園の村づくり」

これからの次大夫堀公園民家園は、

- ◎江戸時代後期から昭和初期の世田谷の村を再現していくます。
- ◎ぶらりと訪れる人や自ら何かを創ろうとする人、そのほか民家園に集う全ての人々が主人公として、ひとつの「村」をつくっていきます。

具体的には、以下のような事業を行っていきます。

- ◎すべての来園者が楽しみながら、世田谷のかつての文化が伝わる事業
- ◎区民が参加できる昔の人生儀礼の再現体験事業（例：婚礼や七五三）
- ◎農村の一日を体験できる事業を行う。
- ◎園内の展示と解説手法を見直し誰でも分かりやすい解説を行う。
- など

次大夫堀公園民家園再整備基本構想（概要）

基本方針

守る

- 1) 世田谷区の貴重な歴史的遺産を守る
- 2) 次大夫堀の水路を核とし形成された公園の水田や農村集落などの景観や環境を保全する
- 3) 世田谷の歴史文化の保全、調査・研究に取り組む
- 4) 次の世代に継承するため、適切な維持・管理を行う

育む

- 1) 民家園の村づくりを通して、世田谷の歴史文化を継承する人を育む
- 2) 世田谷の歴史文化を守り、活かす場として次大夫堀公園及び民家園を育む
- 3) 次大夫堀公園を核として、周辺地域の歴史的な景観、環境を育む

活かす

- 1) 公園として活かす
- 2) 学びと創造の場として活かす
- 3) 世田谷の歴史的なくらしや、なりわいを体験する場として活かす
- 4) 世田谷の歴史文化の魅力や文化を伝え、継承していく場として活かす

今後の次大夫堀公園民家園再整備計画

令和5年度以降に、次大夫堀公園と民家園の一体性を出すための景観整備工事や、区指定有形文化財「旧棚網家住宅板倉」の復原工事などを行っていく予定です。

今後は「区民の皆様が直接参画できる事業」や「クラウドファンディング」など、様々な取り組みを行っていきます。

せたがや 歴史文化物語

日時：令和元年11月30日（土曜日）

テーマ：「世田谷の川の物語 次大夫堀のまち歩きとワークショップ」

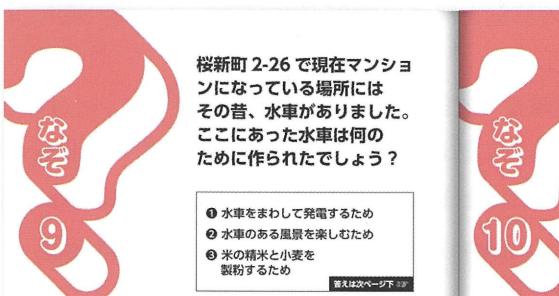


区内には歴史や文化を伝える様々な文化財があります。これまで、文化財は文化財だけで保存・活用されることが多くありました。

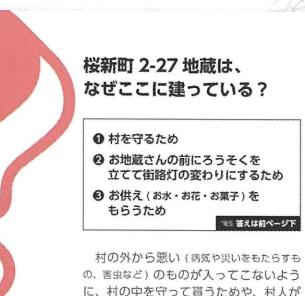
しかし、文化財の価値や魅力は、関連する文化財やまわりの環境と切り離すことはできません。そこで、文化財の周辺環境や関連の文化財を含めて、ストーリーを作ることで、文化財の価値をわかりやすく発信していくという「せたがや歴史文化物語」の取り組みを行いました。



平成30年度にはワークショップの成果として「なぞなぞウォーキング大山道」として冊子を刊行しました。非常に人気で現在は在庫がありませんが、インターネットサイト「世田谷デジタルミュージアム」でデータを公開しています。



12



13



令和元年せたがや文化創造塾

令和元年9月1日(日曜日)、7日(土)、8日(日)

場所: 教育センター「ぎんが」

内容: 5講座(下記参照)

美術史では、江戸時代の彫刻に新風を吹き込んだ黄檗彫刻の像・豪徳寺仏殿像の魅力に迫りました。また、建築史では、世田谷の建築について住宅を中心に、その見方や調べ方をはじめ、文化財としての価値をわかりやすく解説していただきました。

考古では、出土したガラス製の勾玉などを、当時の人々がどのようにして入手したのか、また、それを所有することにどのような意味があったのかということについて、様々な角度から読み解いていきました。そして、歴史では、「安政



竹内先生の講義を受ける風景

の大獄」で有名な井伊直弼が執筆した『茶湯一会集』と、その源流となった名物記『山上宗二記』の2つの茶論から考察していただきました。最後の民俗分野では、指定、未指定の文化財に関わらず、世田谷地域の多くの民俗文化財について、映像を用いて解説をしていただきました。

講義を受けた受講者からは、「実際に実物を拝見したくなりました」という感想や、「文化財の見方や内容がとてもわかりやすく受講できました」という感想をいただきました。

日時	講座名	講師・講師名称
9月1日(日) 10:00～12:30	豪徳寺仏殿像と黄檗派仏師・松雲元慶	稻木 吉一(女子美術大学教授)
9月1日(日) 14:00～16:30	世田谷区の近代建築の見方・調べ方	堀内 正昭(昭和女子大学大学院教授)
9月7日(土) 14:00～16:30	弥生・古墳の墳墓出土玉類から読み解く社会	小寺 智津子(国士館大学・立正大学非常勤講師)
9月8日(日) 10:00～12:30	井伊直弼『茶湯一会集』と『山上宗二記』	竹内 順一(東京藝術大学教授名誉教授)
9月8日(日) 14:00～16:30	世田谷の民俗文化財	田中 宣一(城大名誉教授)

特別公開 勝國寺木像薬師如来像

令和元年11月2日(日曜日)

1回目: 午前11時から正午

2回目: 午後1時30分から14時30分

内容: 勝國寺木造薬師如来像の公開、仏教美術専攻の大學生による木造薬師如来像の解説と見学会

会場: 勝國寺青龍殿、薬師堂

講師: 稲木吉一氏(女子美術大学教授)



青龍殿において講義を受ける光景

勝國寺は世田谷でも由緒のある寺院で、中世の世田谷吉良氏や小田原後北条氏と関わりの深い寺院でした。

今回の特別公開では、女子美術大学教授の稻木吉一氏を講師に迎え、「勝國寺の木造薬師如来立像」と「脇侍日光菩薩立像」の歴史的価値やみどころについてご講義いただきました。

通常非公開ということもあったことから多くの方が参加され、世田谷区の身近な文化財に触れるよいきっかけになりました。

旧清水邸書院活用事業—呈茶—

区登録有形文化財「旧清水家住宅書院」(通称: 旧清水邸書院)は明治43年頃に創建されたと伝わる和風建築です。2度の移築を経て平成25年に区立二子玉川公園に復元されました。

毎週日曜日・祝日・第2月曜日を開放日としていますが、文化財建造物に訪れる機会を増やすことで身近に文化財や歴史を感じていただくために、呈茶事業を実施しました。

令和元年4月28日(日)、5月26日(日)、10月6日(日)、11月17日(日)

区登録有形文化財「旧清水邸書院」(区立二子玉川公園帰真園内 玉川1-16-1)において呈茶サービスを行い、子



どもから大人まで多くの方にお越しいただき、文化財建造物でくつろぎの場を提供いたしました。

郷土歴史文化特別授業

実施時期: 5～11月

内容: 出前授業14校・出前授業(野外)2校

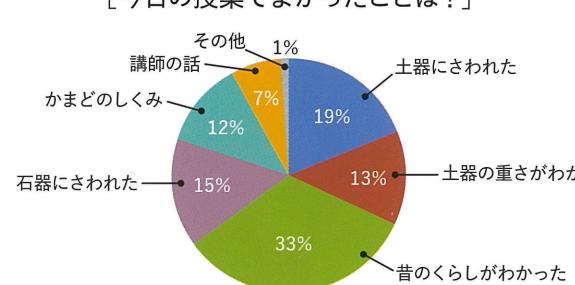
展示(出土土器)3校

区内で出土した土器や石器などを小学校に運搬し、当時の人の暮らしについて、6年生を対象に、学芸員が出前授業を行いました。また、野毛大塚公園等において、古墳等について学芸員が出前授業を行いました。

さらに、学校内に周辺地域で出土した土器やパネルを

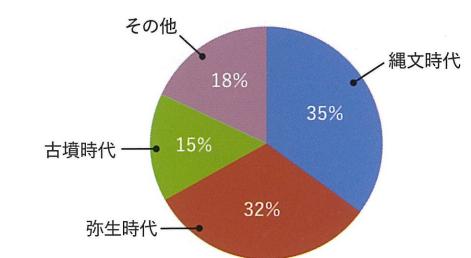
※アンケート結果
一部ご紹介

[今日の授業でよかったです?]



3週間ほど展示し、児童や保護者等に郷土「せたがや」の歴史を展示しました。

[行けるならどの時代に行きたい?]



第14回 世田谷区遺跡調査・研究発表会

令和元年11月16日(土)

会場: 世田谷区立教育センター 参加者: 42名

講演: 「野毛古墳群の盛衰と武蔵国造の乱」

寺田良喜(区学芸員)

天慶塚古墳で発見された長持形石棺と埴輪から西暦534年に起きたとされる「武蔵国造の乱」について、講演をおこなった。調査報告: ①令和元年度遺跡調査の概要

②瀬田遺跡第40次調査

③天慶塚古墳第2次調査

第12回 野毛古墳まつり

令和元年10月20日(日)

快晴の中、前方部のステージでは、4回目の登場となる歌手で、古墳研究家のまりこふん氏のトークショーとライブを行い、昭和女子大学ボランティアサークル「Encore」の初出演で会場は大いに盛り上がりました。

今回も野毛町会をはじめ、社会福祉協議会、野毛青少年交流センター、昭和女子大学、古墳にコーフン協会など多くの団体にご参加いただきました。

また、古墳散策には32人の参加があり、野毛古墳群の魅力に触れた参加者は大変満足していました。



2020世田谷区遺跡発掘調査速報展 「最近の発掘・整理調査から」

令和2年3月7日(土)～4月30日(木)

会場: 郷土資料館

内容: ①下野毛遺跡16次調査で出土した区内最古の旧石器や縄文土器・石器、帆立貝形であることがわかつた野毛2号墳の埴輪、13号墳(方墳)の土師器や鉄鎌等が新たに発見されました。

②堂ヶ谷戸遺跡第60・61次調査の縄文土器、須恵器などをパネルを交えて展示公開しました。

郷土資料館特別展

近代世田谷消防史 町の発展と防災

令和元年10月26日(土)～11月24日(日)



夏休みミニ展示 「すこし昔の世田谷 - 米づくり」

令和元年8月3日(土)～9月29日(日)

かつて世田谷では川沿いを中心に米作りが行われていました。夏休みの子どもに向けて米作りの様子の写真パネルと使用した道具を紹介しました。

民家園の展示

今年度、民家園では企画展2回、収蔵資料展1回の計3回、展示をおこないました。

◆岡本公園民家園企画展

「岡本の記憶を辿る～ムラの名残り～」(令和元年7月2日(火)～令和2年3月31日(火))

現在の岡本に残るかつての岡本の名残りを紹介しながら、岡本の歴史を振り返りました。

◆次大夫堀公園民家園収蔵資料展

「仕立て繕う～くらしのなかの衣と手仕事～」(令和元年9月4日(水)～10月6日(日))

手織りの布や手作りの衣類などから、布と向き合い、大切にしていたかつての衣生活を紹介しました。

◆次大夫堀公園民家園企画展

「古民家は生きている～活用を摸索して～」(令和元年11月1日(金)～令和2年1月1日(水・祝))

今日、文化財建造物の活用が多様化する中、改めて民家園における「活用の精神」を振り返りました。

明治後期以降、人口が増加した世田谷では、住宅地化が進み火災も増加したため、消防施設や道具が整備され始めました。展示では近代世田谷における消防の幕開けとその発展について取り上げました。また、関連イベントとして水鉄砲の体験も行いました。



ミニ展示

「すこし昔の世田谷 -ご飯をつくる・食べる」

令和2年2月1日(土)～3月1日(日)

電気やガス、水道のない時代の食事に焦点を当て、寄贈された調理道具類の変遷を展示しました。

重要文化財

「大場家住宅」の保存と活用について

1 大場家住宅の概要

大場家は世田谷上町名主、世田谷新宿間屋役を務めた家柄で、元文4年(1739)から明治維新まで彦根藩世田谷領の在地代官を代々勤めました。

大場家住宅の主屋はおよそ280年前の元文2年(1737)に建築されたもので、格式の高い意匠が施されており、表門も番所を設けた長屋門形式の設えです。

藩の在地代官の住宅にふさわしい格式をもち、この類の代官屋敷としては希少性もあり、昭和53年(1978)に国の重要文化財に指定されました。

2 保存修理工事について

近年茅葺き屋根の老朽化が目立ち、所有者の一般財団法人大場代官屋敷保存会は、茅の葺き替え工事に合わせて安全面も考慮し、耐震補強工事も実施しました。これを機に安全に座敷の見学も出来るようになり、さらに今後の活用を考慮し、照明器具やトイレなどの設備工事も行い、大場家住宅はより充実した活用が図れるようになりました。

これらの保存修理工事は、文化庁より「重要文化財建造物保存修理事業国庫補助金」の交付を受け実施され、令和元年11月末に竣工しました。



保存修理後の大場家住宅



茅の葺き替え作業の様子

3 活用について

保存修理工事を受け、内部の公開が可能になりました。そのため、世田谷区教育委員会では、一般財団法人大場代官屋敷保存会と連携しながら、大場家住宅の魅力や歴史、生活の様子などを伝えるため、下記の事業を実施しました。

(1)茅葺き見学会

(令和元年5月25日、7月25日)※共催事業

工事中に茅葺き見学会を実施し、日本の伝統的な茅葺きの様子を見学したり、実際に下地の竹を縄で結ぶ作業を体験で

きる事業を実施しました。参加者は茅葺きの工程の写真撮影や、初めての藁縄での作業なども楽しみました。



茅葺き見学会の様子

(2)大場家住宅保存修理工事完成記念見学会

(令和元年12月8日)

工事完成を記念し、今回行った工事の内容、大場家の歴史や代官屋敷について解説を行う見学会を実施しました。耐震補強工事により「役所の間」や「二階座敷」など多くの方が初めて見学し、熱心に解説に耳を傾けていました。

(3)伝統の香一香りを楽しむひなまつり

(令和2年2月24日)

大場家住宅にひな人形を飾り、数種類の香木の香りを聞き分ける簡単な聞香体験や貝合わせなど、親子ワークショップを実施しました。多くの親子連れの方に春の大場家住宅を体験いただきました。

(4)郷土資料館企画展「大場家の歴史と代官屋敷」

(令和元年11月30日～令和2年4月30日)

大場家所蔵の古文書や調度品、絵画を展示し、生まれ変わった大場家住宅と、代官という重責を担った大場家の歴史について紹介しました。

今後も多くの方が足を運んでいただける活用事業を行い、大場家住宅の魅力や歴史、世田谷の歴史や文化について大場家住宅を通して知る機会や体験する機会を増やしていきます。

郷土資料館

[特別展]

「(仮称)多摩川と村々」
令和2年10月24日(土)～12月6日(日)

江戸時代、多摩川は名勝として親しまれ、文人墨客や将軍が遊楽に訪れました。一方で、沿岸諸村と都市江戸をつなぐ物資輸送路でもあり、陸路との交差点である渡船場もありました。本展では、人々の生活と深く結びついていた多摩川と沿岸村々との関わりについて紹介します。

[夏休みミニ展示]

「すこし昔の夏のくらしー涼をとる」
令和2年8月1日(土)～9月27日(日)

現代の暑い夏に欠かせないエアコンは、昭和40年代に入って出回るようになりました。それ以前、人々はどのようにして涼をとる工夫をしていったのでしょうか。今に残る昔の道具から、そのくらしの様子を紹介します。

[美術ミニ展示]

「世田谷ゆかりの近世画人3
一相澤五流と坂本浩雪」
令和2年12月12日(土)～令和3年1月17日(日)

世田谷ゆかりの近世画人シリーズ第三弾です。とはいっても、今回はちょっとゆかりの薄い二人、相澤五流と坂本浩雪です。今日忘れられた再評価されるべき近世の画の名手の妙をご堪能ください。

民家園

岡本七夕まつり
令和2年7月4日(土)

その他、1年を通じて、藍染めや糸紡ぎなどの「民家園教室」、十五夜(9月13日(日)前後)や節分(2月3日(水))など、かつての世田谷で行なわれていた様々な行事を行います。

手作り市
令和2年11月23日(月・祝)

その他

旧清水家住宅書院での呈茶
令和2年春及び秋頃

二子玉川公園の日本庭園内にある区登録有形文化財「旧清水家住宅書院」で抹茶を飲みながら、のんびりしたひとときを過ごしませんか？

せたがや文化創造塾
令和2年8月下旬～9月上旬

歴史や文化に関する連続講座です。その年に行われた発掘調査の報告や講演を行います。

東京都遺跡調査・研究発表会
(主催: 東京都、世田谷区)
令和3年2月7日(日)

東京都内でその年に行われた発掘調査の報告や講演を行います。

世田谷デジタルミュージアム

区内にある豊富な文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化し、誰もが貴重な文化財に触れることができるインターネットサイトです。郷土資料館などで収蔵されながら、頻繁に展示できずにいた文化財や昭和30年代の世田谷の風景写真などを数多く収録しています。

また、「お知らせ」では、様々な歴史文化講座やイベントなどを掲載しています。

ぜひ、ページを開いて、世田谷の歴史や文化にふれてください。

サイトへの
アクセスは
こちらから。
↓



博物館が
お手元に!!

世田谷デジタルミュージアム 検索

QRコード ← サイトへのアクセスはこちらから。



クリック